

チームバチスタの栄光

海棠 尊著

東城大学医学部付属病院の心臓移植チームである「チーム・バチスタ」内で手術中の事故死が相次いで起こりました。もしかしたら内部犯行による死亡事故ではないかという疑いが出てきはじめます。病院長は内密に事を運ぶため万年講師で神経内科の田口医師に調査を指示します。彼は派閥争いのすさまじい大学病院内で出世コースから外れたにもかかわらず長年辞めることなくのほほんと残れている珍しい人物。そんな彼は最高の技術を持つ心臓外科医・桐生医師と彼の「チーム・バチスタ」を調査していきます。こっそり調査するのではなくチーム全員と面談をして解析していく方法をとるのです。一人一人面談するうちにチームの持つ不安要素、個人個人の性格も次第に浮き彫りにされていきます。そして田口医師をサポートすべく登場した厚生省から派遣されたとても長い肩書きを持つ白鳥が登場します。一見とんでもなくトンチンカンな事をしているようですが、実はとんでもなくアタマが切れるのです。彼ら二人で事件を解決すべく突進してゆき、最後は犯人も殺害方法も分かるのですが、犯人の「何故殺してはいけないのですか？実験で使う犬は実験が終わったら殺しても良いのに。」という言葉には正直言つて嫌な気分になりました。あんなに引き込まれるようにそして白鳥が登場してから小気味良く進んでいったのに、犯人の告白のあたりで「そんな理由で人殺しはないやろ。」と急にヒートダウンしました。

F・N・



宝島社

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞